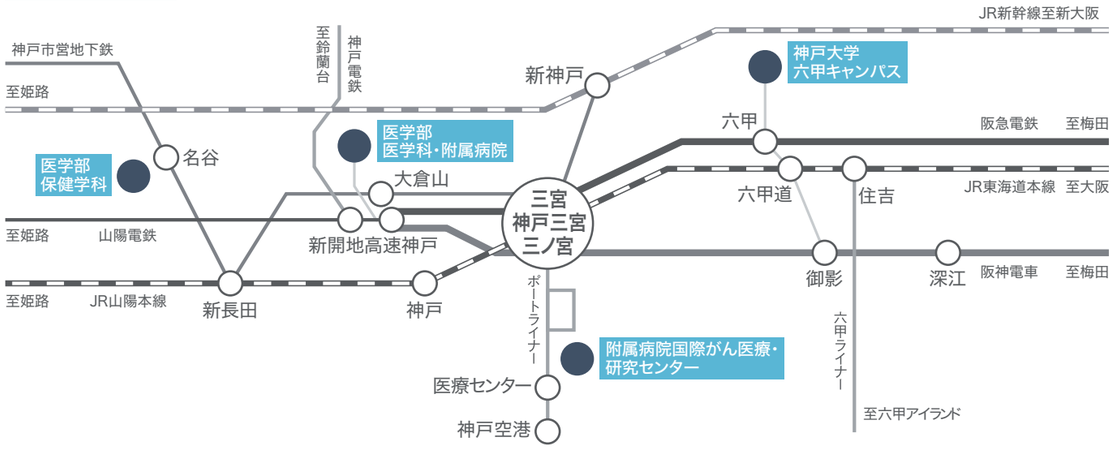
Access アクセス

主要路線図



交通アクセス

■電車利用
JR「神戸」駅下車　徒歩約15分
神戸高速鉄道「高速神戸」駅下車　徒歩約13分
神戸市営地下鉄「大倉山」駅下車　徒歩約5分

■バス利用
JR「神戸」駅前より神戸市バス9系統、110系統
もしくは112系統に乗車　約5分　「大学病院前」バス停下車

■タクシー利用
JR「神戸」駅前より　約5分
新幹線「新神戸」駅前より　約15分

神戸大学 医学部医学科　http://www.med.kobe-u.ac.jp
〒650-0017
神戸市中央区楠町7丁目5番1号　学務課医学科教務学生係
TEL.078-382-5205

Kobe University
School of
Medicine
2020-2021

神戸大学
医学部医学科

いのちと向き合う

医学科の教育理念

神戸大学は、大学全体として国際性豊かな「研究大学」を指向しています。医学部医学科における教育はもとより、高い倫理観を有し高度な専門的知識・技能を身につけた医師（医療人）を養成することを主たる目的としていますが、本学科の特徴は、それにとどまらず、旺盛なる探究心と創造性を有する「科学者」としての視点を持った医師／医学研究者を育成することを目指している点にあります。この方針に沿って、平成13年度より本学科の大学院講座化（部局化）が施行され、学部と大学院を通した一貫した研究教育指導体制の確立を目指しています。また、広い視野を有し、地域のみならず地球規模で国際的に活躍できる人材の育成を目標としている点も本学科の特徴です。

医学教育

医学は人間の生命と健康を守る学問です。人間を対象とするという点で、医学は他の自然科学と異なり、人文科学的、社会科学的な面をもっています。医学は、多くの科学に根ざし、その科学の成果を人の生命の保持にどのようにとり入れるかを、これを受ける人の立場に立ち誠意とヒューマニズムをもって考えなければなりません。医学にはサイエンス（科学）とアート（技術）の2つの面があるといわれますが、ここでいうアートには倫理的な要素が含まれています。換言すれば、医学は、狭い意味の学問としての医学と、科学的技術としての医術と、道徳的実践としての医道の3つから成り立っていますが、その何れを欠いても完全な医学とはいえません。本学における医学教育は、全学共通授業科目と医学部専門科目（基礎医学・臨床医学）の有機的連携をはかりながら一歩一歩前進する6年一貫教育の方針をとっています。広く知識を授け、同時に人間を形成する教養の場とするとともに、医の倫理を体得させ、かつ科学的思考過程を養い、旺盛な探究心を有する医師を育成することを教育方針とし、それによって医学教育水準の向上をはかり、社会の福祉に貢献することを使命としています。

望ましい学生の資質としては、医学は人間を対象とした学問であるので、医学を志す人は単に自然科学の基礎能力だけでなく、人間としての深い教養と人類に貢献することの意義を感じうる豊かな人間性を持ち合わせていることが要求されます。また、現代の医療は個人によって行われることは少なく、むしろ集団への適応性や集団における指導性も重要な資質とされます。

Kobe University
School of
Medicine
神戸大学 医学部医学科

神戸大学 医学部医学科の歴史

医学部の前身は、兵庫県立神戸医科大学であり、その母体は兵庫置県と共に建設された神戸病院である。明治、大正、昭和と県政の歩みの中に幾多の変遷、消長を経て、昭和43年（1968年）3月31日に国への移管が完了し、神戸大学医学部となった。医学部の歴史は、この附属病院の歴史でもあり、遠く150年程前に始まって、現在では関西における医学・医療の中心的役割の一翼を担うようになっている。

1869	神戸病院創立、医学伝習所開設（明治2年、1869年）
1882	県立神戸医学校・薬学校設置（明治15～21年、1882～1888年）
1944	兵庫県立医学専門学校設置（昭和19年、1944年）
1946	兵庫県立医科大学設置（昭和21年、1946年）
1952	兵庫県立神戸医科大学［改称］（昭和27年、1952年）
1958	大学院医学研究科（博士課程）設置（昭和33年、1958年）
1964	神戸大学医学部（医学科）［国立移管］（昭和39年、1964年）
1967	大学院医学研究科（博士課程）［国立移管］（昭和42年、1967年）
1967	附属病院［国立移管］（昭和42年、1967年）
1973	附属動物実験施設設置（昭和48年、1973年）
1979	附属医学研究国際交流センター設置（昭和54年、1979年）
1999	大学院医学系研究科［改称］（平成11年、1999年）
2001	医学科大学院講座化（平成13年、2001年）
2002	附属病院新病棟開院（平成14年、2002年）
2002	医学系研究科バイオメディカルサイエンス専攻（修士課程）設置（平成14年、2002年）
2004	国立大学法人へ移行（平成16年、2004年）
2004	附属医学医療国際交流センター［改組］（平成16年、2004年）
2008	大学院医学研究科［改称］（平成20年、2008年）
2009	医学研究科附属動物実験施設［改称］（平成21年、2009年）
2009	医学研究科附属感染症センター［改組］（平成21年、2009年）
2014	地域医療活性化センター設置（平成26年、2014年）
2017	国際がん医療・研究センター開院（平成29年、2017年）

Kobe University School of Medicine

神戸大学 医学部医学科 4つの特長

神戸大学医学部医学科では、「基礎医学研究」、
「地域医療教育」、「基礎臨床融合」、「国際交流」の4つを柱として、
社会に貢献できる医師・医学研究者を養成しています。
より良い医学教育を目指して日々進歩し続けています。

POINT 1 基礎医学研究医養成

本医学科では「基礎・臨床融合による基礎医学研究医養成プログラム」を設置し、6年間の医学教育の中でリサーチマインドを育成する教育プロジェクトを実施しています。医学科1年次から研究に取り組める環境を提供し、大学院との連携も推進しています。医学科4年次終了後に博士課程に進み早期に博士号を取得できるMD-PhDコース、医学部を卒業し初期臨床研修を受けながら大学院で研究を開始できる大学院・早期研究スタートプログラムがあります。

POINT 2 地域医療教育

本医学科では、特色ある地域医療教育を提供しています。地域に暮らす住民の生活を支える活動を実践するために、医療、保健、福祉、介護に係る幅広い知識・技能・態度を6年間継続して学修します。内容は、講義：地域医療学、地域医療システム学、臨床医学講義（地域医療）と、実習：初期体験臨床実習、早期臨床実習1・2、IPW、地域社会医学実習、関連病院実習、個別計画実習（地域医療）で、充実した教育プログラムを経験できます。

POINT 3 基礎臨床融合

本医学科は、多くの優れた研究者を輩出してきた伝統に基づき、科学者としての視点を持った医師および生命科学・医学研究者、Physician Scientistを育てることを大きな目標にしています。優秀な臨床医を育てるため臨床推論の教育や診療参加型実習を充実し、6年次にはチューターの指導の下、学生個人の裁量で臨床・研究実習が計画できる個別計画実習などを通じて、多様な学びの機会を生かして国際的に活躍できる人材を育成します。

POINT 4 国際交流

本医学科では国際的に活躍する優れた医師・医学研究者の育成を目指しております。1～3年次の英語および医学英語教育に加え、5年次でのハワイ臨床英語研修、6年次での海外病院実習（個別計画実習）があります。ハワイ臨床英語研修はハワイ大学の学生を交え、英語での問診、プレゼンテーションなどを学びます。海外病院実習（個別計画実習）では海外の病院に滞在し、診療に参加して、国際的な視野の獲得に努めています。

医学部在学中から、最先端の医学研究を体験・実践できる

基礎・臨床融合による基礎医学研究医養成プログラム

基礎医学研究医養成プログラムでは、医学科1年次から6年次まで継続的に研究に取り組める環境を構築しています。1年次の新医学研究コースは、大学入学当初より基礎医学に触れることを目的としています。2年次の基礎配属実習では、希望する基礎医学研究室に4週間通い、研究活動に集中します。3年次以降、研究継続を希望する学生を対象に、3〜6年次の選択科目として医学研究を開講します。医学研究では、研究室における研究活動に加え、基礎医学ゼミ、学内研修会、他大学とのリトリート、国内外学会参加支援など、研究に関わる様々な活動をサポートします。卒業時には、継続して医学研究に取り組んでいる6年次の中で、原則1名に対し、神戸大学医学部医学科卒業生最優秀研究賞を授与しています。また、5年次からは特待生制度を設置し、1学年あたり2名を選抜します。特待生には最大24ヶ月間の給付金を支給し、医学部卒業後は大学院・早期研究スタートプログラムに接続します。

●基礎医学研究医養成のプロセス

※1　5年次での博士課程入学可　　※2　医学部休学

先輩からのメッセージ　やりがいやコースの魅力について語ってもらいました。

私はノーベル賞を受賞したiPS細胞やオートファジーの研究を知り、想像を超えた生命現象に好奇心をかきたてられ、入学後まもなく研究室に通い始めました。そこで見聞した議論や研究内容、論文、講演会に刺激を受け、自分も生命の謎に挑みたいと思い、医学部卒業前に大学院で研究し博士号を取得するMD-PhDコースに進みました。大学院ではストレスによる脳機能変化の解明に取り組んでいます。神戸大学では「基礎・臨床融合による基礎医学研究医の養成プログラム」により1年次から6年次まで研究に携わることができ、学会に参加したり、学内外の研究熱心な学生と交流する機会が得られます。神戸大学医学部医学科で研究に挑戦し切磋琢磨しましょう。

MD-PhDコース
（博士課程2年）
沼　知里さん

研究とは、興味ある対象について、未知の真理を解き明かす行いです。聞こえはいいですが、そんなに平坦な道のりではありません。うまくいく時はうまくいくし、だめな時はさっぱりだめ。だからこそ、色んな人に挑戦してもらいたい。辛くても必死に頭を使って前へ進もうとすること、それは将来の「生きる力」と直結します。医学科進学をお考えの皆さん、このプログラムに参加して、将来に向けての大きな貯金を作ってみませんか。

最優秀研究賞 受賞
（令和元年度卒）
塚本 修一さん

地域に貢献できる医師を目指す

兵庫県地域特別枠

全国的に医師不足の問題が指摘されている中、兵庫県においても一部の地域や診療科などで、必要な医療体制を確保し、維持していくことが難しい状況が生まれています。このような状況を踏まえ、神戸大学医学部では地域医療に携わる医師の不足という状況の解消に向けた医師養成の取り組みを行っています。

兵庫県からの医師養成数増の依頼を受け、地域に学生（卒業生）を定着させる取り組みとして、平成22年度から、卒業後に勤務する地域を指定した推薦入試（地域特別枠）を実施し、平成25年度以降の入学定員を10名としています。令和2年5月1日現在の在学者は61名となりました。

本入試では、医師として活躍するに十分な資質と明確な目的意識を持ち、兵庫県の地域医療に貢献したいという強い関心を持ち、地域に定着する意志のある学生の入学を期待しています。

地域医療夏季セミナー

但馬地区・丹波地区・播磨地区など、ひょうごの未来を築く7つの地域に分かれ、住民講話、医療体験実習、訪問診療や地場産業の見学など地域医療の「今」を体感して来ました。

住民、医療関係者、参加学生を交えた意見交換会の風景です。医療にとどまらず、地域の文化や暮らしなど幅広い分野の内容が討論されます。

訪問診療の風景です。実際に患者さん宅を訪問し、訪問診療で必要な技術や知識、さらには患者さんの暮らしを学びます。

兵庫県の医師修学資金の適用

兵庫県は、本学医学部医学科の学生に対して、将来医師として兵庫県内の地域医療に従事しようとする者を対象とした医師修学資金として奨学金を準備しています。推薦入試（地域特別枠）合格者に対して、この制度が適用されます。一定の期間、兵庫県が指定する地域・病院に勤務した場合は、修学資金の返還が免除されます。奨学金制度の詳細は、推薦入試（地域特別枠）学生募集要項ならびに兵庫県の兵庫県養成医師制度ホームページを参照してください。

先輩からのメッセージ　やりがいやコースの魅力について語ってもらいました。

新しい何かに取り組むとき・迷っているときなど、様々な状況下で幅広い未来や自信を生み出すには「とにかくやってみること」ですが、私が今学んでいる地域医療の学び舎は、そんな言葉が何よりも当てはまる場所です。

入学からたった3年間で、様々な地域へ宿泊形式で参加する夏季セミナー・先進地域見学ツアー、講演形式の男女共同参画セミナー・エキスパートセミナーなどの参加から、プライマリケア学会での発表や地域活性化事業の学生リーダーまで経験できました。

他大学にないような数々のチャンスが浮かぶ環境は、医師として地域に飛び出した時から住民や患者さんに寄り添った医療を提供することや、地域活性化事業を行いよりよい医療体制づくりをしようといった「幅広い未来」や「自信」を生み出す糧になっています。

だんだんと魅力的に感じてきましたか？　思いもよらない最高の6年間を過ごせるこの場所に、みなさんが来てくださることを願っています。

（4年）
田中　黎さん

グローバルな視野で活躍できる優れた医師及び医学研究者の育成のために

国際交流

医学部医学科および医学研究科では外国の教育研究機関との間で学術交流協定、学生交流細則を締結し、共同研究、教員の交流、学生の交流、最新の医学情報の交換を行っています。提携校はアジア（中国、台湾、韓国、インドネシア、タイ、シンガポール、フィリピン、マレーシアなど）、北米（米国、カナダ）、欧州（ドイツ、ベルギー）にあり、活発な国際交流を行っています。研究留学では米国、カナダ、ドイツ、イギリスなどの世界最先端の研究室へ留学しています。また、アジア、アフリカから多くの留学生を受け入れています。国際交流を推進するために2017年4月に次世代国際交流センター（Next Generation International Center: NIC）を設置し、学生や教職員の国際交流ならびに外国人留学生の受入活動の支援を行っています。海外留学の費用は日本学生支援機構海外留学支援制度や神緑会（医学部医学科同窓会）、医学部医学科後援会の寄付金から支援しています。

協力大学・病院先

- シンガポール国立大学
- マヒドン大学（シリラー病院、ラマチボディ病院）
- チェンマイ大学
- アイルランガ大学
- インドネシア大学
- パジャジャラン大学
- ガジャマダ大学
- ディポネゴロ大学
- フィリピン大学マニラ校
- 中国医科大学
- 台北医学大学
- 高雄医学大学
- ピッツバーグ大学
- 聖ルカクリニック
- ハワイ大学
- Hawaii Tokai International College

先輩からのメッセージ　実際に研修に参加した感想を語ってもらいました。

私は8月にハワイで行われた語学研修に参加しました。参加者は全国の大学から集まり、新たな出会いに恵まれた5日間となりました。プログラムの中心は、患者役をして下さるハワイ大学の医学生に問診を取り、現地で働く先生方に症例プレゼンテーションをし、フィードバックを頂くほか、現地のクリニックや病院、医学部を訪問したりと学びも遊びも充実した日々となりました。このような素晴らしい機会を与えて下さった先生方に感謝致します。神戸大学では、日本のみならず海外で活躍する医師とも出会う機会に恵まれます。皆さんの入学を楽しみにしています。

（6年）
近藤 杏名さん
語学研修

神戸大学医学部では、6年次に東南アジアやアメリカの病院で2～4週間の実習を行うことができます。現地の病院を見るまでは、「日本とどのような違いがあるのだろう？」と想像することでしょう。しかし意外にも、日本の医療との共通点は多いものです。医療の世界は高度に国際標準化されていることを発見できるはずです。また、海外の医学生は私たちと比べ物にならないほど勉強熱心で意欲的であることにも驚くと思います。彼らの姿勢を見て、皆さんのモチベーションにつなげて下さい。

（令和元年度卒）
大田 聡一郎さん
海外実習

機構図

目指せ、Physician Scientist

医学科カリキュラム

1年次に全学共通科目と、専門教育の基礎的科目を学びます。2・3年次の基礎医学科目においては、人体の構造と機能、病理・病態を中心に講義・実習で学びます。3年次から並行して臨床医学教育が始まり、講義のほか4年次には問題解決型教育（症候別チュートリアル）や臨床技能実習を行います。4年次後半には、全国統一基準による共用試験CBT（知識）と臨床実習前OSCE（技能・態度）を行い、合格すれば臨床実習へと進みます。4・5年次は、大学病院・関連病院にて診療参加型実習を行い、医師としての知識・技能・態度を修得します。6年次は、選択式の診療参加型臨床実習・海外臨床研修などを通じて、さらに研鑽を積みます。以上と並行し、6年間に縦断的に、医学研究、データ・サイエンス、医学英語、地域医療を重点的に学びます。最後に臨床実習後OSCE・卒業試験の合格をもって卒業となります。なお、カリキュラムの継続的改革を行っているため、個々の教育プログラムは随時改定しています。

医学科6年間のカリキュラムと卒業後までの流れ

入学

教養教育

医師を志すにあたっての、基本的な知識、倫理観、人間性を養います。

1 年 次

- **●教養科目**
- **●転換教育科目**
- **●共通専門基礎科目**
  心と行動等
- **●総合医学**
  地域医療学
- **●新医学研究コース**

基 礎 医 学

科学としての医学の基礎を身に付けます。

2 年 次

- **●転換教育科目**
  医学英語1・2
- **●基礎医学**
  解剖学・組織学・生化学等
- **●基礎・臨床融合科目**
  イメージング
  臨床遺伝学・腫瘍学
- **●総合医学**
  地域医療学
- **●総合実習**
  基礎配属実習1
  早期臨床実習1
- **●高度教養科目**
  英語アドバンスド・コース
  地域医療システム学
  行動科学

基礎医学から臨床医学へと学びが進みます。

3 年 次

- **●転換教育科目**
  医学英語3・4
- **●基礎医学**
  公衆衛生学・法医学
- **●基礎・臨床融合科目**
  薬理学および臨床薬理学
- **●臨床医学チュートリアル**
  臨床医学講義1・2
- **●総合医学**
  診断学総論・地域医療学等
- **●総合実習**
  早期臨床実習2
- **●高度教養科目**
  英語アドバンスド・コース
  医学史と医学概論等
- **●医学研究（1）**

臨 床 医 学

実技トレーニング開始、実際の診断と治療を学びます。

4 年 次

- **●臨床医学チュートリアル**
  臨床医学講義3
  症候別チュートリアル
  IPW
- **●総合実習**
  臨床医学基本実習
  地域社会医学実習
  ベッドサイドラーニング
- **●医学研究（2）**

共用試験CBT／OSCE

病棟の診療チームに参加し、医師として必要な知識、思考法（臨床推理）、技術（スキル）、態度の基本的な内容を学びます。

5 年 次

- **●総合実習**
  ベッドサイドラーニング
  関連病院実習
- **●医学研究（3）**

学生自身が臨床実習のカリキュラムを設計し、大学病院内外の実習病院で実践していきます。

6 年 次

- **●総合実習**
  個別計画実習
- **●総合医学**
  全人医学・ユニオンレクチャー
- **●医学研究（4）**

卒業時OSCE

医師国家試験

卒業

卒業後臨床研修

専門領域

※このカリキュラムは令和2年度入学のものです

先輩からのメッセージ　やりがいやコースの魅力について語ってもらいました。

研究に触れて新たな発見を

医学部医学科の魅力の一つに、早くから基礎医学研究に触れられることがあげられます。1年次の新医学研究コース、2年次の基礎配属実習などを通じて、低学年のうちに研究を行っている方々の講義を聴き、実際に実験を行うことで、医学に対する視野がさらに広がり、その後の学びや進路により多くの選択肢が生まれると思います。この神戸大学医学部で、皆さんが多くのことを学び、様々な可能性が育まれることを願っています。

（3年）
中原 廣大さん

医学部医学科では2年次で基礎配属実習があり、研究をより身近に感じながら医学の勉強をすることができます。高学年では希望すれば海外の病院で実習ができ、6年次の個別計画実習では病院を自由に選べるなど、学生の可能性を大きく広げてくれる大学です。私は勉強のほか、小児科ボランティアとして週に2回小児科病棟に入院している子どもたちと遊んだり、勉強を教えたりしています。医師になる前に患者さんやご家族と接することで、勉強だけでは得られない多くのことを学んでいます。

（5年）
倉橋 悠里子さん

先輩からのメッセージ　やりがいやコースの魅力について語ってもらいました。

医学部医学科では、どんな勉強をしているイメージがありますか？もちろん将来医師になるために目指す学科なので、6年かけて人体の構造や機能などについて学ぶ基礎医学から、疾患について学ぶ臨床医学まで幅広く学んでいます。
4年次の後半に2つの試験に合格するとstudent doctorに認定され、いよいよ大学病院での臨床実習が始まります。それまでの知識のインプット中心の授業とは異なり、実際の医療現場で患者さんを相手に診察を行ったり、担当した患者さんについて上級医にプレゼンテーションを行ったりと、知識のアウトプットが中心となり、慣れないうちは少ししんどいかもしれません。しかし、同じ実習班の仲間達と励まし合いながら全診療科を経験する10か月間は一生の思い出になります。自分の進みたい診療科を選ぶきっかけにもなりますし、実際、私もこの実習がきっかけで選びました。また5、6年次では大学病院だけでなく神戸大学医学部の関連病院や海外の病院で実習する機会が設けられています。
様々な病院で臨床実習を経験できる神戸大学で、一緒に医師を目指して勉強しませんか。

（6年）
久保 智暉さん

CAMPUS LIFE キャンパスライフ

医学科の6年間、勉学・サークル活動・様々な行事に彩られたキャンパスライフが待っています！
1年次では、六甲キャンパスで異なる学部の学生とともに学び、2年次からは医学部附属病院が隣接する楠キャンパスで本格的に医学・医療の専門知識や技術の習得に励みます。
多くの医学生がクラブ・サークル活動にも熱心に取り組み、自己の可能性を再発見できるとともに、医師・医学研究者として大切な人間性の育成にもつながっています。

新歓合宿

単位修得のガイダンスや教職員・先輩学生を交え、今後の医療・研修を担うべき医師像について話し合います。また、数人ずつのグループに分かれて、医療の基礎やAED、人工呼吸を上級生から学ぶ救急講習会が行われます。

白衣授与式

医学部、病院の執行部（諸先輩）から白衣を着せて頂きます。新たな気持ちで、臨床実習に臨みます。医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する共用試験（CBT、OSCE）に合格するとStudent Doctor認定証が発行され、臨床現場へ進むことができます。

●学生課外活動クラブ一覧

■文化系

- 写真部
- 軽音楽部
- クラシック音楽愛好会
- 美術部
- ESS
- 東洋医学研究会
- 小児病棟ボランティア（Open Future Club）
- C.N.F

■運動系

- ラグビー部
- 野球部
- サッカー部
- 硬式テニス部
- ソフトテニス部
- バドミントン部
- 卓球部
- ヨット部
- 空手道部
- 水泳部
- 柔道部
- 剣道部
- 弓道部
- ランニング部
- ダンス部
- 男子バスケットボール部
- 男子バレーボール部
- 女子バスケットボール部
- 女子バレーボール部
- スキー部
- ワンダーフォーゲル部
- ウインドサーフィン部
- ゴルフ部
- 合気道部
- ハンドボール部
- フットサル部

●年間スケジュール

4月
- ●入学式
- ●新入生歓迎合宿
- ●新入生歓迎祭
- ●健康診断

5月
- ●神戸大学創立記念日

7月
- 前期期末試験※

8月
- ●前期授業終了
- ●オープンキャンパス
- ●西区体（西日本医科学生総会体育大会）

10月
- ●後期授業開始※

11月
- ●大倉山祭
- ●六甲祭
- ●解剖体慰霊祭

12月
- ●冬季休業開始

1月
- ●冬季休業終了
- ●後期期末試験※

2月
- ●後期授業終了※

3月
- ●学位記授与式

※は学年によって異なります。

大倉山祭

医学科主催の大学祭です。学生・地域の方々の交流や来場者の方々に医学科をより身近に感じてもらうことを目的とし、医学科軽音部などによるステージ企画や骨密度・肌年齢を測定できるブースなど様々な企画を催しています。

学位記授与式

神戸大学の学位記授与式は、ポートアイランドのワールド記念ホールで全学一斉に行われます。その後、医学部医学科生は、医学部長から一人ずつ学位記を手渡されます。また、優秀な成績を修めた学生には、醫王賞を授与します。

MESSAGE 医学研究科長・医学部長・医学科長・附属病院長挨拶

医学研究科長・医学部長挨拶

神戸大学医学部医学科は、人間性豊かで高い倫理観ならびに探求心と創造性を有する科学者としての視点を持つ医師/医学研究者を育成するために国際的に卓越した教育を提供することを基本理念としています。この教育理念に基づき①豊かな人間性、高い倫理観ならびに高度な専門知識・技能を身につけた医師/医学研究者の育成、②旺盛なる探求心と創造性を有する科学者としての視点を持った医師/医学研究者の育成、③国際的に活躍できる優れた医師/医学研究者の育成の3つを教育目標としております。本学医学部の歴史をたどりますと、明治2年（1869年）に設立された神戸病院を母体としており、この神戸病院に始まった医師養成の長い歴史が、現在の神戸大学医学部の数多くの業績を生み出す大きな原動力となっています。この間、神戸大学医学部は、神戸の楠地区を拠点として国内外でも卓越した研究・教育・診療施設へと発展し、ノーベル医学生理学賞を受賞された山中伸弥博士を始め多数の優秀な研究者ならびに臨床医を輩出して参りました。また、医学部は、先端的医学研究とともに医療現場を支える優秀な医師を育成するという大きな使命があることは言うまでもなく神戸大学医学部は、550万県民を擁する兵庫県における唯一の国立大学医学部として兵庫県の地域医療を支える優秀な人材を育成して参りました。

神戸大学医学部医学科では、医学部の目指す社会的使命をしっかりと理解でき、勉学に励むことができる能力と知識を兼ね備えた次のような学生を募集しています。

1) 生命科学・医学に強い興味を持ち、探求心と学習意欲が旺盛な学生
2) しっかりとした基礎学力を身につけている学生
3) 協調性があり、問題解決においては独創性と指導力を発揮できる学生
4) 国際的に活躍する意欲を持った学生

一般選抜、総合型選抜、さらに近年、社会的にも喫緊の課題となっている医療過疎地域の医療を支えるために本学医学部として兵庫県と連携し、その人材を育成するための学校推薦型選抜（地域特別枠）（兵庫県養成医師制度）（10名）、また、学士入学（第2年次編入学）入試を行っています。
神戸大学医学部医学科の6年間の教育では、1年次の教養教育、2年次から3年次の基礎医学教育、3年次から4年次の臨床医学教育、4年次後半から始まる臨床実習など、段階的に医師になるための修練を積んでいきます。その中で、医師としての心構えを養うための早期臨床実習・地域医療実習、チュートリアル教育（少人数グループでの問題解決型学習）、国際医療人としての能力を養うための医学英語教育ならびに海外臨床実習（選択）、先端的な生命科学・医学研究の現場に参加して直に体験できるよう1年次の新医学研究コース・2年次の基礎配属実習ならびに3年次以降の医学研究（1)-(4)、5年間の学修を踏まえ将来の進路を考えるための6年次の個別計画実習（自分で計画する臨床・研究実習）の期間、などが設けられています。特に医学研究に強い興味のある方は、入学後の選択で基礎医学研究医育成コースを選択し、5年次から本格的な医学研究に取り組み、将来、教員（クリニシャン・サイエンティスト）を目指すことが可能です。
また、MD-PhDコースを設けており希望があれば医学部5年次からでも、早期に大学院に入学し研究活動を開始することも可能です。もちろん、医学部卒業後には医学や生命科学の基礎あるいは臨床研究に興味のある方は、大学院医学研究科に進学できます。本医学研究科は、生命科学分野における世界最高水準の基礎的研究を行うとともに特に臨床系の分野では臨床応用を目指した先端的医療に関わる数多くの研究が行われており、国内で高く評価される独自の大学院教育プログラムを選択することができます。このように、神戸大学医学部医学科では、様々なキャリアパスに対応した教育が整備されています。
将来、医学研究や医療を通して新しいことに自ら挑戦しながら社会に貢献したいという意欲・活力に満ちた君達に本医学科・医学研究科での医学の道を歩み始めて頂きたいと切に願っています。

医学研究科長・医学部長
藤澤　正人

医学科長挨拶

私たちは、皆様の希望をかなえるよう、充実した教育カリキュラムを提供しています。
本医学科は、全国に先駆けて昭和36年から、学生全員が基礎医学研究を体験する“基礎配属実習”を行い、医学研究教育に力を入れてきました。その歴史の中でシグナル伝達医学研究において多くの世界的な実績を挙げ、優秀な基礎医学研究者やクリニシャン・サイエンティストを輩出し、さらには、世界をリードする再生医学研究者を輩出するなど、本医学科の医学研究教育は国内外で高い評価を得ています。
陸・空・海に開かれた国際都市である“神戸”の特色を活かし、積極的に海外の大学医学部と国際交流協定を結び、数多くの留学生を受け入れると同時に、数多くの学生を海外派遣しています。また、社会的な問題である医師・医療の地域偏在に対処できるよう、兵庫県の医学・医療機関との地域連携を強化し、地域医療教育のさらなる充実に取り組んでいます。
医師としての基本的知識技能を修得することに加え、“常に相手の立場・第三者の立場で、広くそして深く考える”習慣を身につけた将来の医学・医療の発展を担う志の高い人材を育成したいと考えています。
私たちと一緒にそれぞれの領域で世界をリードする医師、医学研究者を目指しましょう。

医学科長
匂坂　敏朗

附属病院長挨拶

神戸大学医学部附属病院は日本の医療をリードしていく先端医療の研究・教育、そして診療の拠点として発展してきています。また、特定機能病院として関西医療圏においてその中核をなし、兵庫県域においても医療をリードし、地域医療の充実にも貢献しています。本附属病院は皆さんがすばらしい医師として育っていかれるために職員一同、医学教育に情熱を注いでいます。
大学の使命は、高度先進医療を担う優れた医療人の育成と、次世代の医学を担い、社会に貢献できる医学研究者の育成です。皆さんの将来の夢はいろいろだと思いますが、全ての医師に共通する使命は「苦しんでいる患者さんを助ける」というものです。そのためには、自分を律して他者に奉仕する、高い倫理感とチャレンジ精神が必要です。入学後、早い時期から臨床に触れ合う機会を設け、学生時代から研修医、そして専門医となるまで一貫した医学教育システムを構築し、教育環境の整備に努めています。
皆さんが神戸大学で知識や技術の習得のみならず、高い倫理観、豊かな人間性を築かれ優れた医療人として成長し、社会に貢献されることを切に願っています。

附属病院長
平田　健一